

# Respiratory Care Team です!

H29年 第2号

## 病棟での離床・レクリエーションの様子



平成 29 年 11 月 16 日 今年、久々の快晴に恵まれ、人工呼吸器装着患者様、そのご家族と共に、森林浴に出ました。呼吸器装着患者様の増加に伴い、病院全体からスタッフの協力を要請し、予定していた全ての 11 名の患者様が参加できました。患者様は、このレクリエーションに合わせて車椅子乗車など、リハビリを進めてきました。おいしい空気と、綺麗な景色に日頃なかなか見ることができない患者様の笑顔を見る事ができ、スタッフのモチベーションにもつながりました。

## 呼吸療法認定士とは・・・

呼吸療法認定士とは、呼吸療法に関する専門的な知識と技術を習得した者に与えられる資格です。



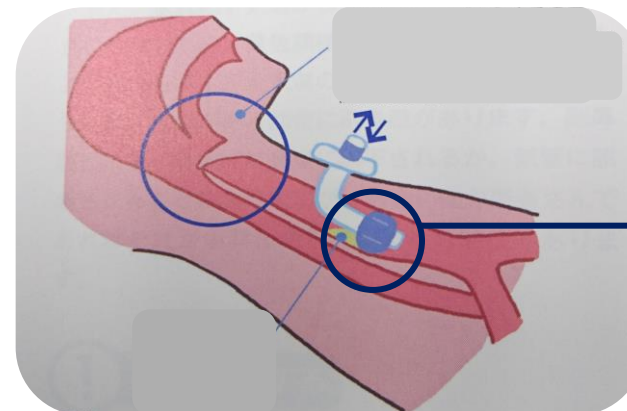
主な役割は、吸入療法、酸素療法、呼吸理学療法及び人工呼吸などの呼吸療法の実施及びその遂行に用いる機器の管理です。

当院には、7名の認定士が所属し、活躍しています。患者様のケアプランの提案、呼吸ケアに関する知識をスタッフへ伝達する事で、病棟の呼吸ケアの質の向上に努めています。また、勉強会により知識の向上を図ったり、自己研鑽のため、学術発表を行ったりしています。そして、チームメンバーと協力する事で、理想の多職種連携の形を模索しながら日々活動しています。

## 食べていなくても、誤嚥するの??? ( 気管切開の方 )

食事をしている人だけが誤嚥するわけではありません。食べていなくても誤嚥します。不顕性誤嚥といい、唾液を誤嚥してしまう事があります。人の唾液は1日に約1Lほど分泌されると言われています。

唾液は、口の中を潤す大切な働きがあるのですが、口腔内が汚染していると、汚染された唾液を誤嚥してしまい、肺に入ってしまう事で肺炎を起こしてしまいます。気管切開をしている方は、気管カニューレの構造により、流れ込みをガードするような仕組みになっているのですが、それでも、すき間から流れ込んでしまいます。



気管の中でカフという風船のようなものが膨らみ、唾液が通過しないようになっています。



## 気管カニューレを挿入している方

上記のような構造になっています。気管の中で風船がふくらんで唾液が流れ込むのを防いでいます。それでも、気管の状況やカフの状況などで唾液が流れ込んでしまう場合があります。

## 予防策

- 1) 口腔ケアをしっかりとしておく事で、万が一唾液が流れ込んでも肺炎をおこしにくいようにする事が予防策の一つです。食事をしていないと、唾液の分泌も少なくなり、唾液による自浄作用が効きにくくなります。そのため、口腔内で雑菌が繁殖し、汚染してしまいます。
- 2) カフ (気管の中でふくらんでいる風船) が適正にふくらんでいるか、確認する。

## 肺炎を発症してしまったら・・・



医師の処方、抗生剤治療、看護師にて口腔ケアの徹底・体位ドレナージ (痰を出しやすくする身体の向きにする) の実施  
セラピストにて 徒手介助・呼吸介助で痰を出しやすくしています。また、ポジショニングと  
いって、寝ている状態で、痰が出やすい体位を設定し、呼吸を楽にする方法を考えます。  
それぞれの職種に特化した方法で、患者様のケアにあたっています。